

## 咽頭結膜熱の流行について（注意喚起）

県が実施している感染症発生動向調査の令和5年第40週において、大崎保健所管内における1定点医療機関当たりの患者数が3.33人となり、警報開始基準（3人）を超えました。

今後、県内全域において流行が拡大する可能性がありますので、発熱や喉の痛み等の症状のある場合は、家族や周りの方へうつさないように、下記の予防を徹底しましょう。

### ～咽頭結膜熱（プール熱）とは～

アデノウイルスが原因の感染症で、主な症状は発熱、喉の痛み、結膜炎等で、通常は3～5日くらい続きます。小児（特に5歳以下）の発生が多く、特に生後14日以内の新生児が感染した場合は、重症化することがありますので、早めの受診が大切です。潜伏期間は5～7日です。感染力が強く、感染経路は、咳やくしゃみによって感染する飛沫感染、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染があります。

咽頭結膜熱には、特別な治療法はなく、基本的には対症療法（症状を和らげる治療）を行います。

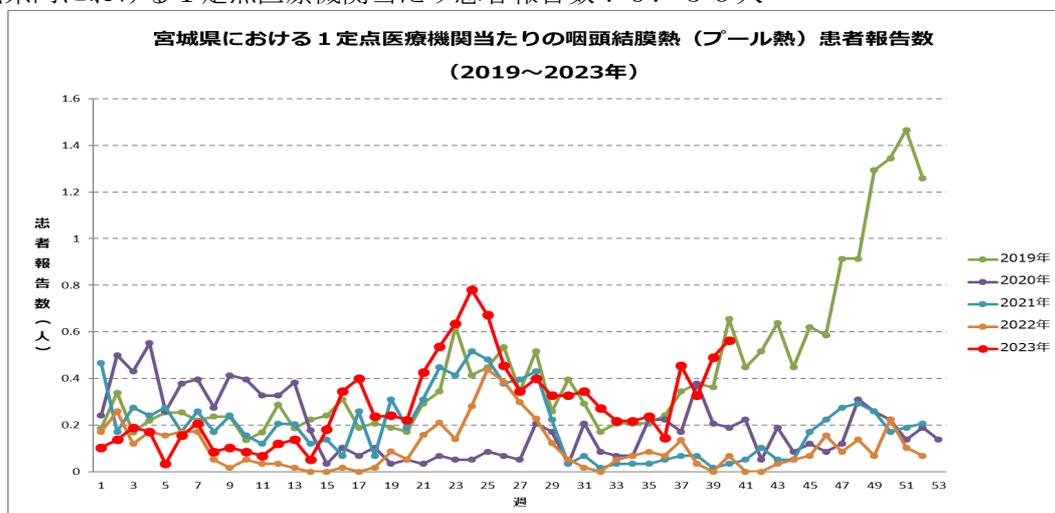
### ～咽頭結膜熱（プール熱）の予防～

- 1 食事の前や排泄後、赤ちゃんのおむつ交換の後などは、こまめに石けんと流水による十分な手洗いを徹底しましょう。
- 2 家族や身近な方が感染した場合は、タオルなどの共用を避けましょう。
- 3 プールを利用する際は、タオルなどの共用は避け、プールからあがるときはシャワー及びうがいを徹底しましょう。
- 4 「咳エチケット」を実施しましょう。
  - ・咳やくしゃみを他の人に向けて発しない。また、ハンカチやティッシュで口と鼻を覆う。
  - ・咳やくしゃみが出るときはマスクをする。

#### ○ 患者報告数（第40週：令和5年10月2日～10月8日）

大崎保健所管内における1定点医療機関当たり患者報告数：**3.33人**

宮城県内における1定点医療機関当たり患者報告数：0.56人



#### ○ 参考となるホームページ

厚生労働省「咽頭結膜熱について」<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou17/01.html>

国立感染症研究所「咽頭結膜熱とは」<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/a/adeno-pfc.html>

宮城県結核・感染症情報センター <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/hokans/kansen-center.html>